

倉橋賞を受賞して

今回受賞したわれわれの研究は、楠見が昭和三十八年に広島大学教育学部附属三原幼稚園長を兼任したときからはじめたものである。楠見はそれまでに長年、小・中・高校の教員養成課程の学生に理科教育の指導を行なってきたが、

昭和三十八年からは幼稚園「領域自然」の講義も担当し、幼児から高校生までの一貫教育をめざしての研究をはじめ、人間の科学的思考や自然認識の発達過程を確立した。その後広島大学の四附属校を核に、広島県下の幼・小・中・高校の理科担任教師三十四名の協力を得て、約三千名の被験者によって調査検討の上、昭和四十四年から実践研究に移行したのである。

この研究によって、幼児（三―五歳）の自然認識は、空想的認識から感性的認識に移行しつつある過程であることが知った。この研究をもとにして十二人の幼児研究グループは昭和四十五年以来、日本保育学会の全国大会に発表を

行なってきた。そして三年目の今回「幼児の遊びにみられる領域自然の素材の最適化―砂あそび―」の発表に対して受賞したのである。

われわれの研究はグループによる一貫した研究であって、幼児の自然認識の発達過程にあわせた実践の積み上げによって、その最適化を完成させるのが目標である。今回の受賞は予想もしなかっただけにグループの者の驚きも大きかったが、そのよこびもまた大きかった。研究の価値は当事者には常に不安を伴うものであるが、受賞することによって自信を得ることに大きな意義があると思う。受賞はまた完成されたものがみとめられる場合もあるが、われわれの場合のように研究を完成させるための激励の意味をもつ場合もある。これはわれわれにとって何よりもありがたいことである。そして「領域自然の素材の最適化」を完遂してご期待にこたえたいと思う。

松 尾 龍 一
楠 見 久
片 山 貞 昭